

## 看護部のトピックス

・・・新入職の仲間を迎えました・・・

平成21年度 善衆会病院看護部 新入職者オリエンテーションを行いました。  
病院全体の新入職者に行われる、合同オリエンテーションは4月1日・2日の2日間  
でした。

2日目には問題解決技法のひとつである「Uの木発想法」でグループワークを行いました。

参考文献：宇井美智子著 多目的に活用できる問題解決の新手法 Uの木発想法  
日本能率協会マネージメントセンター 出版

テーマは「患者に喜ばれる医療をするために自分は何をするのか」

〇〇をするために△△を××する とテーマにそってひとり 10枚のリーフ（葉）に  
書き込みます。それをグループでカテゴリー分けし自分たちは患者が喜ぶケアのために  
何をすべきなのかを共通認識していくためのワークです。

3グループに分かれ、楽しみながら活発な意見交換が行われました。

最終的にカテゴリーとして抽出されたものの代表をいくつか紹介します。

「ケア」・・・患者の日常生活が快適であるようにケアを行う。

快適に過ごしていただくため 清潔援助を丁寧にする。

「接遇」・・・気持ちよく入院生活を送ってもらうために笑顔で接する。

患者さんに満足していただくために誠意をもって接する。

「コミュニケーション」・・・患者に喜ばれるために話を傾聴する。

不安を軽減するために声をかける。

その人を知るためにコミュニケーションをとる。

「事故防止」・・・安全な看護をするために勉強をして臨む。

安全な生活を送ってもらえるように感染予防をしっかり行う。

医療事故を起こさないように、自己の健康管理に気をつける。

その他「自己の成長」「ケアの充実」「理解」「プライバシー」「笑顔」「観察」などのカ  
テゴリーが抽出されました。

新人たちは基礎教育を終えて初めて職業に就いた者、社会人経験のある者と様々ですが、  
看護職として「人を理解し尊敬し温かい心で接する」ことが大切であると全員が分かっ  
ているな！という手ごたえを感じた研修でした。それはまさに看護部の理念であり、  
ナース達ひとりひとりが大切にしているものだからです。

頼もしい仲間を迎え、これから共に成長していけることを嬉しく思いました。

4月3日・6日・7日は先輩ナースを講師に迎え 基礎看護技術演習を行いました。

内容は以下の表の通りです。

	午前 9:00~11:45		午後 13:30~16:45
1日目 4/3 (金)	演習内容	血糖測定 インシュリン注射 筋肉注射・皮下注射・皮内注射	滅菌操作 吸引法 (口腔・気管内・気管切開)
2日目 4/6 (月)	演習内容	採血 静脈内注射	食事の援助技術 ・経管栄養 排泄援助技術
3日目 4/7 (火)	演習内容	清潔援助技術 ・全身清拭・陰部洗浄 ・口腔ケア ・入浴介助	体位移動技術 ・体位変換 ・車椅子へのトランスファー ・車椅子から トイレへのトランスファー

4月8日~10日は院内ラウンド実習を行いました。

手術室・検査科・放射線科・外来・薬剤部に協力頂き、以下のねらいに副って説明を受け実務見学をさせていただきました。

#### 1. 目的

院内における他部門・他部署の業務を知り、臨床看護実践能力の向上を図る。

#### 2. ねらい

- 1) 手術室入室から退出までの看護の実際が分かる。
- 2) 主要な手術を見学し、術後の看護に必要な知識・技術を学ぶ事ができる。
- 3) 外来受診の流れを理解し、そこに関するスタッフの看護・接遇サービスの実際が分かる。
- 4) 薬局での薬剤管理の実際と病棟とのつながりが分かる。
- 5) リハビリテーションの実際を知り、外来・病棟とのつながりが分かる。
- 6) 検査・放射線部門の業務の実際を知り、外来・病棟とのつながりが分かる。

ラウンド実習は今回初めての試みでした。

他部署のご協力のおかげ様で、ねらいは達成でき新人たちも「看護業務に入ってしまったら、このような機会はなかなかない。」「他部署の動きや業務を知ったことで、思いやりが持てる。」などの感想が聞かれました。有意義な実習だった様です。

入職から2週間は以上のような研修を行い、3週間目から配属部署に勤務しています。入職後1年間は主にプリセプターシップに基づくOJT（現場での教育）で、教育を行います。

1か月後・3ヶ月後・半年後・9か月後・1年後には、看護部の教育担当者とプリセプター、実習指導者などを交え、各段階ごとにテーマを決めてフォローアップ研修を行います。

同じプログラムで卒後教育を行っても、個々人で進度や達成度は異なってきます。時にはうまくいかず足踏みをすることもあるでしょう。フォローアップ研修を行う意味は、新人たちに「自分は一人ではないんだ」という意識をもって進んでほしいこと、痛みや喜びを仲間たちや先輩たちと共有しながら、共に成長していくことを願っているところにあります。